

気仙沼市義務教育環境整備計画見直し

平成28年5月

気仙沼市教育委員会

目 次

はじめに	…… 1
I これからの学校教育	
II 整備計画見直しにあたって	
III 整備計画見直しの観点	…… 2
1 出生数と児童・生徒数の変化	
(1) 本市の児童・生徒数の推移	
(2) 本市の出生数の推移	
(3) 学校規模の推移	…… 3
(4) 学校配置の現状と課題	
(5) 整備計画で統合対象となっている小・中学校の児童・生徒数の推移	…… 4
(6) 地域ブロックと学校規模・配置の適正化	…… 6
2 地域コミュニティの変化	…… 9
(1) 児童・生徒の居所状況	
(2) 指定校の変更	……10
IV 整備計画の見直し	……11
1 第2段階（平成27～29年度）対象校	
(1) 小学校	
水梨小学校	
月立小学校	……12
小原木小学校	……13
馬籠小学校	……14
(2) 中学校	……15
小泉中学校	
2 第3段階（平成30～33年度）対象校	……16
3 統合や通学区域	……17

はじめに

教育委員会では、気仙沼市義務教育環境検討委員会からの答申を受け、平成25年6月25日に策定した「気仙沼市義務教育環境整備計画（以下「整備計画」という。）」に基づき、保護者・地域住民の皆様との理解と協力を得ながら、学校統合を推進してまいりました。

当該整備計画では、災害公営住宅や防災集団移転など住宅整備が進む平成27年度に市教育委員会が各地域の人口、児童・生徒の居所動向並びに今後の見通し等を確認し、その結果を踏まえて、整備計画の見直しを行うこととしています。また、各学校の児童・生徒数の状況や推移によっては、保護者・地域住民の皆様から意見をいただきながら、地域ブロックを越えた統合や通学区域の再編等も視野に整備計画を実施していくこととしています。

I これからの学校教育

今日の社会は、情報化や技術革新により急激に変化しており、現在の小・中学生が社会人として活躍する2030年には、少子高齢化や人口減少による社会構造の変化、地球温暖化による環境への影響など、予測することが困難な時代になると言われています。そこで、これからの教育には、様々な課題に主体的に関わり、他者と協働しながらより良い社会と幸福な生き方を自ら創りだしていくことのできる人材の育成が求められています。

そこで、これからの学校では、一人一人の子供たちに、これまで学んできた知識をもとに、高い志をもち、自ら課題を見つけ、多くの友達と関わりながら課題解決に向け、互いに学び合い、高め合いながら社会を生き抜いていく力を培うことが大切になります。

そのためにも、多くの友達や先生と関わり合うことができる、適正規模の学校が必要です。

II 整備計画の見直しにあたって

整備計画の見直しについては、次の2点を中心に行いました。

1 保護者や地域住民との懇談会の実施

教育委員会では、整備計画についての理解を得るために、これまで、第2段階対象校及び関係校の保護者や地域住民と30回の懇談会を、第3段階対象校及び関係校の保護者代表とは10回の懇談を行ってまいりました。これまでの懇談会で出されたご意見等も踏まえて、今回の見直しをまとめました。

2 整備計画の「見直しの観点」での検討

整備計画では、見直しの観点と具体的方策として、

- ア 出生数と児童・生徒数の変化（人口や出生数、児童・生徒数を把握し、今後の推移を予測する。）
- イ 地域コミュニティの変化（居所の状況や地域コミュニティの状況と変化を把握する。）
- ウ 復興の状況（気仙沼市震災復興計画の進捗状況、公共施設や道路などの社会基盤の整備状況を把握する。）

としています。

しかし、現時点ではいまだ復旧・復興の途上であることから、できる限り実態を捉えることができる資料による見直しに配慮しました。

第3段階については、整備計画見直しの観点にそって、実情を把握し、必要な場合は再検討します。

Ⅲ 整備計画見直しの観点

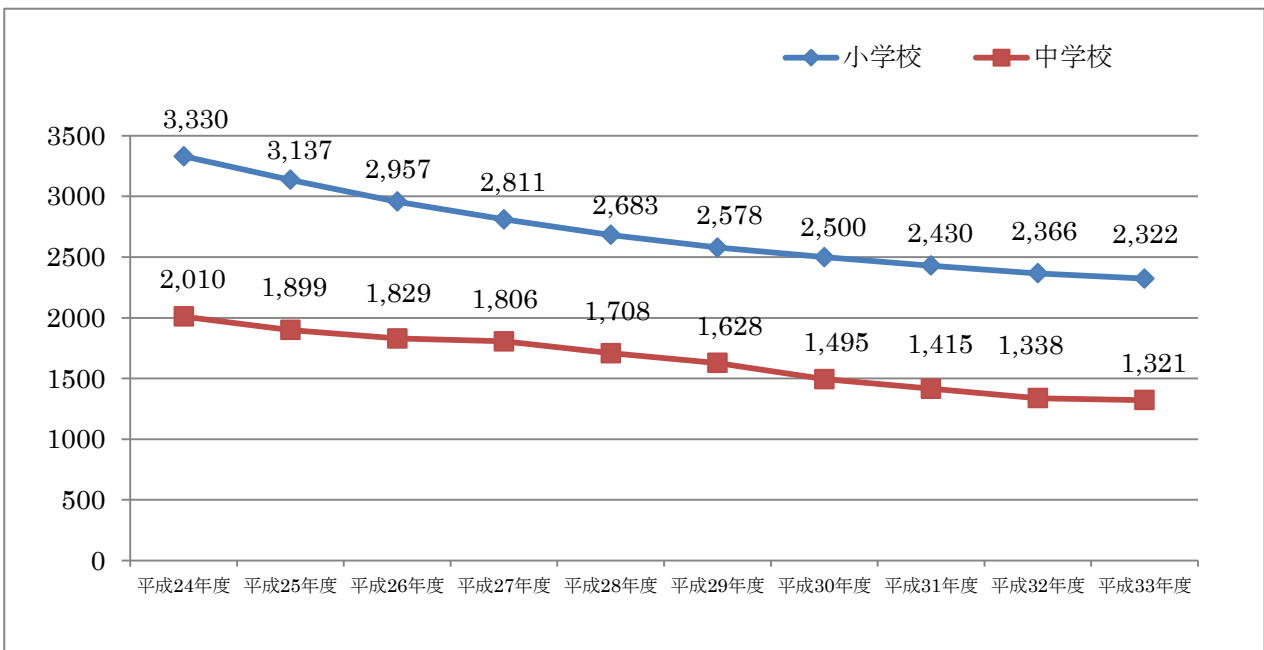
1 出生数と児童・生徒数の変化

(1) 本市の児童・生徒数の推移

整備計画が策定された平成 25 年度の児童・生徒数は、小学校の児童数が 3,137 人、中学校の生徒数は 1,899 人でした。平成 28 年度の児童・生徒数をみると、小学校の児童数は 2,682 人（平成 25 年度の 85.5%）、中学校の生徒数は 1,708 人（平成 25 年度の 90%）まで減少しています。

今後の推移については、本市が進める「気仙沼まち・ひと・しごと創生総合戦略」の政策を機動的に実施しても、現状数の維持は厳しいことが明確になりつつあります。

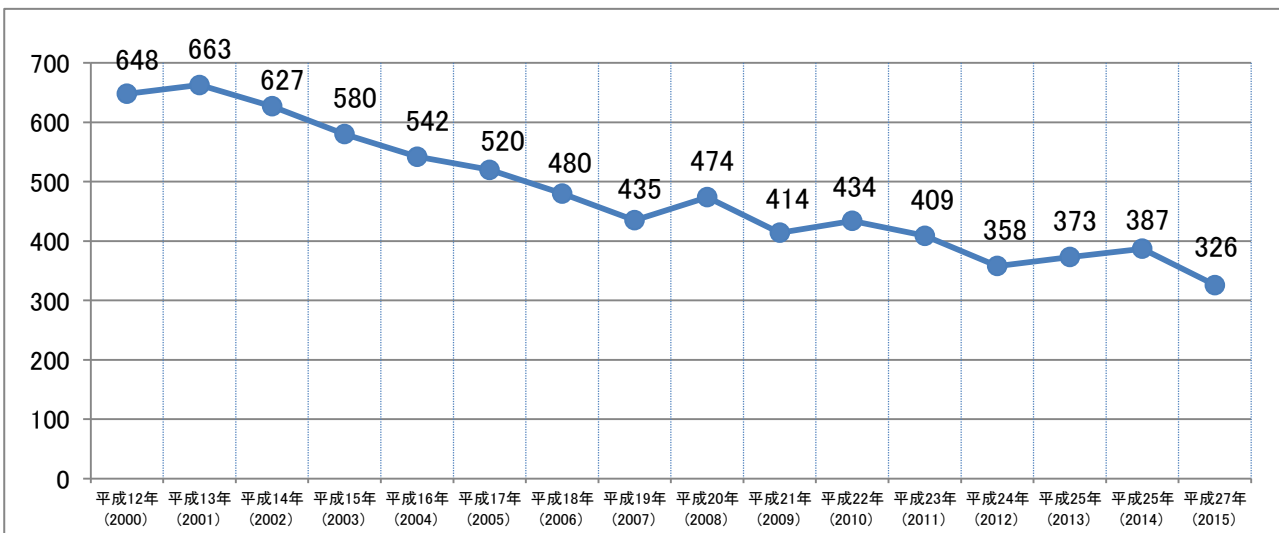
(人)



(2) 本市の出生数の推移

本市の出生数は、年々減少しており、平成 24 年以降 300 人台で推移し、平成 27 年度は 326 人と過去最低になっています。

(人)



(3) 学校規模の推移

整備計画では、学校規模の基準を「小学校は1学年2学級以上を基本」「中学校は1学年3学級以上を基本」としています。整備計画を策定した平成25年度には、学校規模の基準を満たしていた小学校は4校、中学校は1校ありましたが、年々その数は減少しています。

	小学校	中学校
平成25年度	4校（気仙沼、九条、松岩、面瀬）	1校（気仙沼）
平成28年度	2校（九条、面瀬）	0校
平成33年度	1校（九条）	0校

複式学級（1学級を2学年以上で構成）をもつ過小規模の小学校と小規模校のうち学年1学級ずつの学校数は、次のようになっています。

整備計画を策定した平成25年度の過小規模校は5校でしたが、学校統合で白山小、落合小が閉校したものの、平成28年度には小原木小も過小規模校となり4校となっています。

小規模校についても、児童数の減少により過小規模校となったり、学校統合で学校数が減少したりするなかでも、小規模校の校数は今後も増加する予測となっています。

	複式学級	小規模校	
		小学校	中学校
平成25年度	5校（白山、水梨、月立、落合、馬籠）	5校（大島、唐桑、中井、小原木、小泉）	3校（大島、小原木、小泉）
平成28年度	4校（水梨、月立、小原木、馬籠）	5校（大島、唐桑、中井、小泉、大谷）	2校（大島、小泉）
平成33年度	5校（水梨、月立、小原木、馬籠、小泉）	7校（鹿折、階上、大島、唐桑、中井、津谷、大谷）	4校（大島、唐桑、小泉、大谷）

しかし、整備計画どおりに統合を進めた場合、平成33年度の複式学級設置校は0校、小規模校のうち学年1学級ずつの学校は、小学校4校（階上、唐桑、津谷、大谷）、中学校は1校（唐桑）となる予測となっており、学校統合により学校の適正規模・適正配置化に近づけることができると推測されます。

※ 落合小は平成26年3月、白山小と小原木中は平成27年3月に学校統合により閉校。平成29年4月には、馬籠小、小泉中の統合が決定しています。

(4) 学校配置の現状と課題

整備計画が策定された平成25年4月には、唐桑地域（旧唐桑町）には小学校3校、中学校2校、旧気仙沼市には小学校12校、中学校8校、本吉地域（旧本吉町）には小学校4校、中学校3校が設置されており、小学校19校、中学校13校、合計32校でした。

その後整備計画を推進してきたことから、平成28年4月では、小学校17校、中学校12校、合計29校となっています。

今後、市や市民から示されているまちづくりや人口減対策を講じたとしても、急速な少子化で学校の一層の小規模化が進んでいる現状を考えた時、地域で果たす学校の機能に配慮しながら、整備計画をさらに推進し、適正な学校配置を行う必要があります。

(5) 整備計画で統合対象となっている小・中学校の児童・生徒数の推移

① 第2段階（平成27～29年度）

対象校の小学校は、複式学級解消の統合です。複式学級とは、本来1つの学年で構成する学級を、人数が一定以下のためやむを得ず2つの学年で編制する学級です。具体的には、2つの学年の児童数が16人以下の場合（1年生を含む場合は8人以下）複式学級となります。児童生徒が集団活動を通して人生に必要な物事や態度を学ぶという学校の機能を果たすためには、一定の規模が必要と考えます。

【第2段階対象校（小学校）児童数の推移】

対象校の水梨小学校は、平成21年度から複式学級が設置されており、下の表をみても、今後その解消は見込めません。

水梨小学校の学年別児童数（←→は複式学級となる児童数）

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成28年度	← 4	4 →	← 6	4 →	3	1	22
平成29年度	← 4	6 →	← 4	3 →	1	2	20
平成30年度	← 6	4 →	← 3	1 →	2	8	24
平成31年度	← 4	3 →	← 1	2 →	8	4	22
平成32年度	← 3	1 →	← 2	8 →	4	6	24
平成33年度	← 1	2 →	← 8	4 →	6	5	26

対象校の月立小学校は、平成11年度から複式学級が設置されており、下の表をみても、今後その解消は見込めません。

月立小学校の学年別児童数（←→は複式学級となる児童数）

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成28年度	← 8	6 →	← 1	7 →	5	6	33
平成29年度	← 6	1 →	← 7	5 →	6	3	28
平成30年度	← 1	7 →	← 5	6 →	3	5	27
平成31年度	← 7	5 →	← 6	3 →	5	2	28
平成32年度	← 5	6 →	← 3	5 →	2	6	27
平成33年度	← 6	3 →	← 5	2 →	6	3	25

小原木小学校は、平成26年度から複式学級となる児童数となっていましたが、教員の加配で解消していました。平成28年度からは複式学級が設置され、下の表をみても、今後その解消は見込めません。

小原木小学校の学年別児童数（←→は複式学級となる児童数）

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成28年度	← 7	6 →	← 4	6 →	3	4	30
平成29年度	← 6	4 →	← 6	3 →	4	11	34
平成30年度	← 4	6 →	← 3	4 →	11	5	33
平成31年度	← 6	3 →	← 4	11 →	5	4	33
平成32年度	← 3	4 →	← 11	5 →	4	4	31
平成33年度	← 4	11 →	← 5	4 →	4	8	36

馬籠小学校は、平成10年度から複式学級が設置されていましたが、平成29年4月に津谷小学校との統合が決定しました。

馬籠小学校の学年別児童数 (←→ は複式学級となる児童数)

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成28年度	9	4	4	6	3	4	30
平成29年度	4	4	6	3	4	8	29
平成30年度	4	6	3	4	8	4	29
平成31年度	6	3	4	8	4	10	35
平成32年度	3	4	8	4	10	7	36
平成33年度	4	8	4	10	7	9	42

【第2段階対象校（中学校）生徒数の推移】

対象校の中学校は、規模の小さい学校の統合です。対象校である小泉中学校は、平成29年4月に津谷中学校との統合が決定しました。

(人)

中学校	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年
小 泉	57	49	40	42	44	44	39	33	29	23

② 第3段階（平成30～33年度）

対象校の小学校は、適正規模・配置化を目指した統合で、整備計画では、複式学級が生じる場合に統合を検討することとしています。

【第3段階対象校（小学校）児童数の推移】

(人)

対象校の大島小学校は、平成28年度は4・5年生で複式学級となる児童数ですが、教員の加配により、複式学級は生じませんでした。平成29年度は5・6年生で、複式学級が生じる児童数となる予測です。その後、複式学級は解消するものの、小規模校の状態が続きます。

大島小学校の学年別児童数 (←→ は複式学級となる児童数)

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成28年度	11	7	9	11	9	8	55
平成29年度	7	9	11	9	8	10	54
平成30年度	9	11	9	8	10	10	57
平成31年度	11	9	8	10	10	9	57
平成32年度	9	8	10	10	9	9	55
平成33年度	8	10	10	9	9	5	51

対象校の中井小学校は、平成 29 年度から複式学級が生じる児童数となる予測です。平成 33 年には複式学級は解消するものの、小規模校の状態は続きます。

中井小学校の学年別児童数 (←→ は複式学級となる児童数)

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成 28 年度	16	12	12	16	5	8	69
平成 29 年度	12	12	16	← 5	→ 8	9	62
平成 30 年度	12	16	← 5	→ 8	9	15	65
平成 31 年度	16	← 5	→ 8	9	15	11	64
平成 32 年度	← 5	→ 8	9	15	11	15	63
平成 33 年度	8	9	15	11	15	13	71

対象校の小泉小学校は、平成 28 年度は 2・3 年生で複式学級となる児童数ですが、教員の加配により複式学級は生じませんでした。しかし、平成 29 年度からは複数の複式学級が生じる予測となっています。

小泉小学校の学年別児童数 (←→ は複式学級となる児童数)

	6年	5年	4年	3年	2年	1年	合計
平成 28 年度	11	13	9	← 7	→ 7	9	56
平成 29 年度	13	← 9	→ 7	← 7	→ 9	11	56
平成 30 年度	← 9	→ 7	← 7	→ 9	11	9	52
平成 31 年度	← 7	→ 7	9	11	9	11	54
平成 32 年度	← 7	→ 9	11	9	11	4	51
平成 33 年度	9	11	9	← 11	→ 4	8	52

【第 3 段階対象校（中学校）生徒数の推移】

対象校の中学校も、適正規模・配置化を目指した統合を進めることとしています。対象校の中でも大島中学校の生徒数は急激に減少しています。また、気仙沼中学校、条南中学校、大谷中学校においても、それぞれの生徒数を学区内の小学校の児童数から推測すると、減少していく見込みとなっています。

(人)

中学校	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年	30 年	31 年	32 年	33 年
大 島	75	68	56	48	37	36	29	27	27	29
気仙沼	291	261	261	259	218	190	148	151	127	151
条 南	241	222	203	190	191	188	178	165	151	160
大 谷	99	92	94	107	110	114	102	94	86	82

(6) 地域ブロックと学校規模・配置の適正化

整備計画では、地理的状况や地域形成の歴史的な背景等を踏まえて、本市を 4 地域 (①唐桑・鹿折・大島, ②気仙沼・新月, ③松岩・面瀬・階上, ④本吉) に分け、統合・通学区域の再編を進めて行くこととしています。ただし、児童・生徒数や地域の状況の推移によっては、必要に応じて、地域ブロックを超えて検討を行うとしています。

実際、児童・生徒数の減少と学校の小規模化が進む現状をみると、地域ブロック越えも視野に入れ、学校規模・配置の適正化をあわせて整備計画を推進していく必要があります。

【小学校】

唐桑・鹿折・大島ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した小学校とするためには、現時点では、唐桑地区に1校、鹿折・大島地区に1校が適切と考えられます。

唐桑・鹿折・大島ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
唐桑小	82	73	70	64	67	71
中井小	69	62	65	64	63	71
小原木小	30	34	33	33	31	36
唐桑小+中井小+小原木小	181	169	168	161	161	178
大島小	55	54	57	57	55	51
鹿折小	202	204	202	190	188	174
大島小+鹿折小	257	258	259	247	243	225

気仙沼・新月ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した小学校とするためには、現時点では、気仙沼地区に2校、新月地区に1校が適切と考えられます。

気仙沼・新月ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
気仙沼小	283	269	267	253	267	253
九条小	328	318	321	321	317	309
新城小	256	241	240	225	216	211
月立小	33	28	27	28	27	25
新城小+月立小	289	269	267	253	243	236

松岩・面瀬・階上ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した小学校とするためには、現時点では、松岩地区に1校、面瀬地区に1校、階上地区に1校が適切と考えられます。

松岩・面瀬・階上ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
松岩小	336	303	285	298	266	279
水梨小	22	20	24	22	24	26
松岩小+水梨小	369	323	309	320	290	305
面瀬小	317	315	298	277	260	255
階上小	202	196	181	174	171	160

本吉ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した小学校とするためには、現時点では、2校が適切と考えます。

本吉ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
津谷小	209	217	203	193	189	176
馬籠小	30	29	29	35	36	42
小泉小	56	56	52	54	51	52
津谷小+馬籠小+小泉小	295	302	284	282	276	278
大谷小	170	159	150	145	137	129

【中学校】

唐桑・鹿折・大島ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した中学校とするためには、現状では、唐桑地区に1校、鹿折・大島地区に1校が適切と考えられます。

唐桑・鹿折・大島ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
唐桑中	134	125	117	108	98	82
鹿折中	152	126	118	104	103	109
大島中	37	36	29	27	27	29
鹿折中+大島中	189	162	147	131	130	138

気仙沼・新月ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した中学校とするためには、現状では気仙沼地区に1校、新月地区に1校が適切と考えられます。

気仙沼・新月ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
気仙沼中	218	190	148	151	127	151
条南中	191	188	178	165	151	160
気仙沼中+条南中	409	378	326	316	278	311
新月中	138	149	142	141	140	145

松岩・面瀬・階上ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した中学校とするためには、現状では松岩地区に1校、面瀬地区に1校、階上地区に1校が適切と考えられます。

松岩・面瀬・階上ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
松岩中	232	232	215	185	172	151
面瀬中	200	181	164	163	174	174
階上中	121	112	114	110	107	104
大谷中	110	114	102	94	86	82
階上中+大谷中	231	226	216	204	193	186

本吉ブロックで、学校規模・配置の適正化を目指した中学校とするためには、1～2校が適切と考えられます。

本吉ブロック

学校名	28年	29年	30年	31年	32年	33年
津谷中	134	126	122	124	121	111
小泉中	44	44	39	33	29	23
津谷中+小泉中	178	170	161	157	140	134
大谷中	110	114	102	94	86	82

2 地域コミュニティの変化

(1) 児童・生徒の居所状況

整備計画では、災害公営住宅や防災集団移転など住宅整備が進む平成 27 年度にその見直しを行うこととし、児童・生徒の居所動向や今後の見通しを確認することとしていました。

平成 28 年 3 月 1 日現在では、約 10%（小学生 282 人，中学生 190 人，計 472 人）の児童・生徒が親戚・知人宅やみなし仮設，応急仮設住宅での生活となっているものの，平成 25 年 5 月と比較して，災害公営住宅への入居や防災集団移転の引渡が進み，被災した地域を中心に，新たなコミュニティの構築が進められていますが，震災前のつながりが基礎となっていることから，これまで住宅再建が完了した児童・生徒の居所に大きな変化は見られず，学区単位での児童・生徒数の変動は限定されたものとなっており，その傾向は残された住宅再建が進む中でも変わらないと判断されます。

【児童・生徒の居所状況】

平成 28 年 3 月 1 日現在 (人)

区分	居所別		小学校		中学校		
			H25.5.1 現在	H28.3.1 現在	H25.5.1 現在	H28.3.1 現在	
1	自宅	学区内	2,507 (80.0%)	2,397 (85.1%)	1,505 (79.3%)	1,511 (83.5%)	
		学区外	104 (3.3%)	138 (4.9%)	54 (2.8%)	108 (6.0%)	
2	親戚・知人宅	市内	学区内	44 (1.4%)	29 (1.0%)	25 (1.3%)	13 (0.7%)
			学区外	21 (0.7%)	8 (0.3%)	12 (0.6%)	6 (0.3%)
		市外 (県内外)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	
3	賃貸住宅 (被災のため)	市内	学区内	88 (2.8%)	46 (1.6%)	54 (2.8%)	38 (2.1%)
			学区外	47 (1.5%)	34 (1.2%)	33 (1.7%)	16 (0.9%)
		市外	一般	8 (0.3%)	4 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)
4	応急仮設住宅	学区内	237 (7.6%)	127 (4.5%)	142 (7.5%)	88 (4.9%)	
		学区外	82 (2.6%)	34 (1.2%)	71 (3.8%)	29 (1.6%)	
在籍児童・生徒数			3,138	2,817	1,899	1,809	

第 2 段階対象校の児童・生徒の居所は，そのほとんどが自宅となっていることから，今後居所移動による児童・生徒数の大きな増加は見込めないと思われま。

【第 2 段階対象校 児童・生徒の居所状況】

平成 28 年 3 月 1 日現在 (人)

区分	居所別		第 2 段階対象校別					
			水梨小	月立小	小原木小	馬籠小	小泉中	
1	自宅	学区内	25	29	31	32	37	
		学区外	0	1	1	0	0	
2	親戚・知人宅	市内	学区内	0	0	0	0	0
			学区外	0	0	0	0	0
		市外 (県内外)	0	0	0	0	0	
3	賃貸住宅 (被災のため)	市内	学区内	0	0	0	0	0
			学区外	0	0	0	0	4
		市外	一般	3	0	1	0	0
4	応急仮設住宅	学区内	0	0	0	0	1	
		学区外	0	0	0	0	0	
在籍児童・生徒数			28	30	33	32	42	

第3段階対象校のうち、小学校の児童の多くは、居所が自宅となっています。中学校では、まだ自宅以外を居所としている生徒もいますが、第3段階においては、そのことは解消される見込みであり、各校の予想推移は前述のとおりです。

【第3段階対象校 児童・生徒の居所状況】

平成28年3月1日現在 (人)

区分	居所別		第3段階対象校別							
			中井小	大島小	小泉小	大島中	気仙沼中	条南中	大谷中	
1	自宅	学区内	75	56	59	44	160	143	93	
		学区外	0	0	2	1	59	14	2	
2	親戚・知人宅	市内	学区内	1	0	0	0	0	4	1
			学区外	0	0	0	0	2	1	0
		市外（県内外）	0	0	0	0	0	0	0	0
3	賃貸住宅 (被災のため)	市内	学区内	2	0	0	1	2	18	1
			学区外	0	0	0	0	7	1	0
		市外	一般	0	0	0	0	0	0	0
4	応急仮設住宅	学区内	0	1	0	3	16	9	12	
		学区外	0	0	0	0	19	0	0	
在籍児童・生徒数			78	57	61	49	265	190	109	

(2) 指定校の変更

教育委員会では、児童・生徒を取り巻く生活環境や家庭の事情等の変化を踏まえ、やむを得ず学区外通学を希望する場合、指定校変更の許可基準等を設けています。

指定校変更の理由としては、小学校の場合、「下校後の保護観察が不十分」「学区が接しており、隣の学校の方が安全に通学できる」が多くを占めています。

中学校の場合の多くは、「東日本大震災の影響により居住地を変更している場合」を理由に震災前の学校に通学しています。このことから、今後居所状況が変化したとしても、児童・生徒の在籍数が大きく変動する学校は生じないと考えられます。

平成28年3月9日現在 (人)

第2段階対象校	指定校変更者数 (他校へ転出)	第3段階対象校	指定校変更者数 (他校へ転出)
水 梨 小学校	14	大 島 小学校	2
月 立 小学校	6	中 井 小学校	2
小原木 小学校	1	大 島 中学校	1
馬 籠 小学校	6	小 泉 小学校	4
小 泉 中学校	0	気仙沼 中学校	15
		条 南 中学校	39
		大 谷 中学校	3

IV 整備計画の見直し

1 第2段階（平成27～29年度）対象校

(1) 小学校……複式学級解消に向けた統合

水梨小学校

1 気仙沼市義務教育環境整備計画

水梨小学校は、平成27年度の出生数や居所動向等、住宅建設を含めた復興状況を把握し、検討した上で、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成29年4月までに松岩小学校との統合を進めます。

2 懇談会等開催日（懇談会名）

- ◇ 平成26年11月25日（地域懇談会）
- ◇ 平成27年7月27日（地域懇談会）
- ◇ 平成27年10月26日（地域懇談会）

3 平成28年度学年別児童数 (人)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
1	3	4	6	4	4	22

複式学級の解消は不可

4 教育委員会の対応と考え等

これまでの地域懇談会では、小規模校の良さがある水梨小学校を存続させたい、水梨小学校がなくなると地域行事がどうなるか不安、牧沢に建設中の災害公営住宅（松岩小学区）が完成後、水梨小学校へ通学する児童が増えるのではないかなど、統合に対する不安や児童増の期待などの意見が出され、統合に対して保護者や地域住民の理解を十分に得ることができませんでした。しかし、平成28年度の入学児童はわずか1名で、全校児童も22名となり、また、指定校変更者が14人に及ぶことから、教育環境としての多様な学習活動の展開や望ましい人間関係づくりが難しいと考えます。

【見直し】

水梨小学校は、保護者並びに地域住民の理解を得るため、さらに懇談会等の機会を増やし、丁寧な説明に努め平成30年4月に松岩小学校と統合するよう進めます。

月立小学校

1 気仙沼市義務教育環境整備計画

月立小学校は、平成 27 年度の出生数や居所動向等の実態、通学路の整備を確認し、検討した上で、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成 29 年 4 月までに新城小学校との統合を進めます。

2 懇談会等開催日（懇談会名）

- ◇ 平成 26 年 11 月 27 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 8 月 19 日（地域懇談会）

3 平成 28 年度学年別児童数 (人)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
6	5	7	1	6	8	33

複式学級の解消は不可

4 教育委員会の対応と考え等

これまでの地域懇談会では、小規模特認校制度を活用して通学している児童への配慮や月立中学校統合時の地元要望について質疑がありました。制度利用の児童はこれまで2名にとどまり、児童数の増加にはつながりませんでした。このため、特認校を生かし全市から児童を集める、例えば学力や運動能力等に特化した教育課程、特例校制度についての検討も選択肢に含めますが、弊害が起こる可能性もあることから、慎重な検討と保護者や地域の方々の理解と覚悟も必要となります。月立中学校統合時の地元要望のうち未実施の市道八瀬川線の狭あい部の整備（採石場付近）については、平成 28 年度に整備を進めます。

今後は、保護者や地域住民との懇談等の機会を増やし、相互の理解を深めていきます。

【見直し】

月立小学校は、懇談会時に地元からの指摘事項として、通学路となる市道八瀬川線整備の遅れへの懸念などがあげられたことから、今後ともその進捗を促進するとともに、引き続き保護者並びに地域住民の理解と合意形成に努めながら、平成 30 年 4 月に新城小学校と統合するよう進めます。

小原木小学校

1 気仙沼市義務教育環境整備計画

小原木小学校は、複式学級が生じる場合、通学の安全や災害時の避難対応などを確認し、検討した上で、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成 29 年 4 月までに唐桑小学校との統合を進めます。

2 懇談会等開催日（懇談会名）

- ◇ 平成 27 年 7 月 7 日（保護者代表との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 9 月 7 日（保護者との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 10 月 5 日（唐桑町地域協議会）
- ◇ 平成 27 年 10 月 30 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 12 月 1 日（唐桑小・中井小・小原木小 P T A 役員との懇談会）

3 平成 28 年度学年別児童数 (人)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
4	3	6	5	6	8	32

複式学級の解消は不可

4 教育委員会の対応と考え等

これまでの懇談会では、保護者から統合は致し方ないが、仮設住宅からの転居が進んでいるので、生活が落ち着いてから統合をしてほしい、中井小学校を含めた 3 校の統合を検討してほしいなどの意見が出されました。それを受けて、唐桑地域 3 小学校合同の P T A 役員会を開催し、3 校の統合の可能性についても検討してきました。しかし、小原木小学校は、複式学級解消が見込めないことから、早急な教育環境の整備が必要であると考えます。

【見直し】

小原木小学校は、引き続き保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成 30 年 4 月に唐桑小学校と統合するよう進めます。

馬籠小学校

馬籠小学校は、保護者や地域住民から理解を得たことから、平成 29 年 4 月に津谷小学校との統合とします。

1 気仙沼市義務教育環境整備計画

馬籠小学校は、平成 27 年度の出生数や居所動向等、住宅建設を含めた復興状況を把握し、検討した上で、通学路の安全を確保し、通学路の安全を確保し、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成 29 年 4 月までに津谷小学校との統合を進めます。

2 懇談会等開催日（懇談会名）

- ◇ 平成 26 年 8 月 28 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 6 月 30 日（保護者との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 7 月 30 日（本吉町地域協議会）
- ◇ 平成 27 年 7 月 30 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 9 月 3 日（本吉地区振興会長会議）
- ◇ 平成 27 年 9 月 29 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 10 月 23 日（保護者との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 11 月 10 日（保護者との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 12 月 16 日（津谷小・津谷中 P T A 役員，津谷地区振興会長との懇談会）
- ◇ 平成 28 年 1 月 13 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 28 年 2 月 3 日（本吉町地域協議会）

3 平成 28 年度学年別児童数 (人)

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
4	3	6	4	4	9	30

複式学級の解消は不可

4 教育委員会の対応と考え等

懇談会をとおして、保護者からは統合に概ねご理解をいただきました。一方で、当初は一部の地域の方々からは統合への不安から理解を得ることが難しい状況でした。しかし、懇談会を重ねる中、津谷小学校で多様な学習活動を行わせたい、早い段階から望ましい人間関係づくりをさせたいという保護者の考えに、地域の方々からも理解を得ることができました。そこで、第 80 回定例市議会に「気仙沼市立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例制定について」の議案を提出し、平成 28 年 3 月 8 日に可決されました。今後は、学校・保護者・地域住民の代表者で構成する統合準備会を開催し、平成 29 年 4 月には統合が円滑に行われるよう努めてまいります。

(2) 中学校……規模の小さい学校の統合

小泉中学校

小泉中学校は、保護者や地域住民から理解を得たことから、平成 29 年 4 月に津谷中学校との統合とします。

1 気仙沼市義務教育環境整備計画

小泉中学校は、生徒数の減少が続くことから学習や部活動の一層の充実を図るため、平成 27 年度に出生数や居所動向等、地域の復興状況を把握し安全に通学できることを検討した上で、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成 29 年 4 月までに津谷中学校との統合を進めます。

2 懇談会等開催日（懇談会名）

- ◇ 平成 27 年 4 月 21 日（P T A 役員，振興会長との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 5 月 26 日（小泉小・小泉中 P T A 役員との懇談会）
- ◇ 平成 27 年 7 月 30 日（本吉町地域協議会）
- ◇ 平成 27 年 8 月 4 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 27 年 9 月 3 日（本吉地区振興会長会議）
- ◇ 平成 27 年 11 月 24 日（小泉中 P T A 臨時総会）
- ◇ 平成 27 年 12 月 16 日（津谷小・津谷中 P T A 役員，津谷地区振興会長との懇談会）
- ◇ 平成 28 年 1 月 18 日（地域懇談会）
- ◇ 平成 28 年 2 月 3 日（本吉町地域協議会）

3 平成 28 年度学年別生徒数(人)

1 年	2 年	3 年	合計
1 5	1 8	1 1	4 4

4 教育委員会の対応と考え等

懇談会では、保護者からは多くの人数で学習や部活動を行わせたいという考えから、概ね統合にはご理解を得ました。一方、一部の地域の方々からは、統合への不安が述べられました。しかし懇談会を重ねながら、地域の方々にもご理解をいただくことができました。そこで、第 80 回定例市議会に「気仙沼市立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例制定について」の議案を提出し、平成 28 年 3 月 8 日に可決されました。今後は、学校・保護者・地域住民の代表者で構成する統合準備会を開催し、統合に関する話し合いを重ねながら、平成 29 年 4 月には統合が円滑に行われるよう努めてまいります。

2 第3段階（平成30～33年度）対象校

本市の少子化、学校の小規模化は急速に進んでおり、学校規模・配置の適正化を図るためには、整備計画の推進が喫緊の課題となっています。

教育委員会としては、今回の整備計画の見直しにあたり、第3段階対象校並びに関係校のPTA役員との懇談会、また、地域協議会や市政懇談会でも整備計画について説明し、様々なご意見をいただてきました。

しかし、第3段階対象校を見たとき、今後も整備計画で示した学校規模の基準を達することができず、学校規模・配置の適正化を図るためには、学校統合は待ったなしの状況です。

したがって、今回の整備計画の見直しで、第3段階（平成30～33年度）対象校については、整備計画どおり進めます。なお今後は、急速な児童・生徒の減少傾向を目の当たりにして、具体の統合年度等を再検討することも必要と考えます。

(1) 小学校……適正規模・配置化を目指した統合

【整備計画】

- ① 中井小学校は、複式学級が生じる場合、唐桑小学校との統合を検討します。
- ② 大島小学校は、架橋完成後、道路の整備状況や人口動向等をみて、複式学級が生じる場合、鹿折小学校との統合を検討します。
- ③ 小泉小学校は、複式学級が生じる場合、児童数や居所動向等を踏まえながら、津谷小学校との統合を検討します。

【見直し】

- ① 中井小学校は、学年2学級の適正規模化を図るために、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に唐桑小学校との統合を進めます。
- ② 大島小学校は、架橋完成後、道路の整備状況や人口動向等をみて、学年2学級の適正規模化を図るために、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に鹿折小学校との統合を進めます。
- ③ 小泉小学校は、児童数や居所状況等を踏まえ、学年2学級の適正規模化を図るために、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に津谷小学校との統合を進めます。

(2) 中学校……適正規模・配置化を目指した統合

【整備計画】


- ① 大島中学校は、架橋完成後、道路の整備状況や人口動向等を踏まえ、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、鹿折中学校との統合を検討します。
- ② 条南中学校と気仙沼中学校は、生徒数の推移や道路の整備状況等を確認し、学年3学級の適正規模化を図るため、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、統合を検討します。
- ③ 大谷中学校は、生徒数の減少が続く場合は、通学路の整備や安全の確保等を確認し、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、階上中学校との統合を検討します。

【見直し】

- ① 大島中学校は、架橋完成後、道路の整備状況や人口動向等を踏まえ、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に、鹿折中学校との統合を進めます。
- ② 条南中学校は、生徒数の推移や道路の整備状況等を確認し、学校の適正規模化を図るため、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に、気仙沼中学校との統合を進めます。
- ③ 大谷中学校は、生徒数の減少が続く場合は、通学路の整備や安全の確保等を確認し、保護者並びに地域住民の理解を得ながら、平成33年度を目途に、階上中学校との統合を進めます。


3 統合や通学区域

【小学校】

(統合年度が確定していないものは  で示した)

地域	第1段階			第2段階			第3段階					
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度		
唐桑 鹿折 大島	唐桑小			唐桑小	82人	73人	唐桑小	70人	64人, 33人	67人, 31人	唐桑小	71人, 36人
	中井小			中井小	69人	62人	中井小	64人	63人		中井小	71人
	小原木小			小原木小	30人	34人	小原木小	33人	65人			
	鹿折小			鹿折小	202人	204人	鹿折小	202人	190人	188人	鹿折小	174人
	浦島小			鹿折小			鹿折小					
	白山小			白山小			大島小	57人	55人		大島小	51人
	大島小			大島小	55人	54人	大島小	57人			大島小	
気仙沼 新月	気仙沼小			気仙沼小	283人	269人	気仙沼小	267人	253人	267人	気仙沼小	253人
	九条小			九条小	328人	318人	九条小	321人	321人	317人	九条小	309人
	新城小			新城小	256人	241人	新城小	240人, 27人	225人, 28人	216人, 27人	新城小	211人, 25人
	落合小			新城小			新城小				新城小	
	月立小			月立小	33人	28人	月立小	28人			月立小	
松岩 面瀬 階上	松岩小			松岩小	336人	303人	松岩小	285人, 24人	298人, 22人	266人, 24人	松岩小	279人, 26人
	水梨小			水梨小	22人	20人	水梨小					
	面瀬小			面瀬小	317人	315人	面瀬小	298人	277人	260人	面瀬小	255人
	階上小			階上小	202人	196人	階上小	181人	174人	171人	階上小	160人
本吉	大谷小			大谷小	170人	156人	大谷小	150人	145人	137人	大谷小	129人
	津谷小			津谷小	209人	217人	津谷小	231人	228人	225人	津谷小	218人
	馬籠小			馬籠小	30人	29人	馬籠小					
	小泉小			小泉小	56人	56人	小泉小	54人	51人		小泉小	52人

【中学校】

(統合年度が確定していないものは  で示した)

地域	第1段階			第2段階			第3段階			
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
唐桑 鹿折 大島	唐桑中			唐桑中	134人	125人	唐桑中	108人	98人	唐桑中
	小原木中		小原木中				117人	104人	103人	82人
	鹿折中			鹿折中	152人	126人	鹿折中	27人	27人	鹿折中
	大島中			大島中	37人	36人	大島中			大島中
気仙沼 新月	気仙沼中			気仙沼中	218人	190人	気仙沼中	151人	127人	気仙沼中
	条南中			条南中	191人	188人	条南中	165人	151人	条南中
	新月中			新月中	138名	149名	新月中	142名	141名	140名
松岩 面瀬 階上	松岩中			松岩中	232人	232人	松岩中	185人	172人	松岩中
	面瀬中			面瀬中	200人	181人	面瀬中	164人	163人	174人
	階上中			階上中	121人	112人	階上中	114人	110人	107人
本吉	大谷中			大谷中	110人	114人	大谷中	94人	86人	大谷中
	津谷中			津谷中	134人	126人	津谷中	161人	157人	140人
	小泉中			小泉中	44人	44人	小泉中			82人